



神奈川災害ボランティアネットワークNEWS

発行：NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民サポートセンター 11階
Fax：045-324-1120 E-mail:jimuk.ksvn@gmail.com



平塚市土砂災害活動現場



二宮町災害廃棄物処理活動



秦野市土砂災害現場作業



四者情報共有支援室会議

支援力を受援力に

NPO 法人神奈川災害ボランティアネットワーク
理事長 河西 英彦

昨年元日に発生した能登地震。七尾町、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、志賀町へ3度現地訪問、また電話等ボランティアセンター(VC)への支援申し出も、団体を受け入れたのは3月から志賀町のみでした。12月によりやく輪島が受け入れ、雷雨のため1便中止、1便のみの派遣でした。ボランティアバス15便派遣。令和6年の最終便は志賀町となり、特に奥能登2市町は水害も重なり、1年が過ぎ被災家屋に手付かずが多数あり忸怩たる思いです。平成7年の支援活動が続きます。



災害対応の検証は支援活動と合わせ重要な任務です。特に災害関連死が災害犠牲者を上回る事態は対応の危機です。救援体制の検証を急がなければなりません。おりしも台風10号の影響で県南・県西部に線状降水帯発生、広範な豪雨災害が県内に発生、2019年に次ぐ神奈川に災害ボランティア支援センターが県サポートセンターに開設され、前回の経験から四者(神奈川県・県社協・県共募、県災ボラ)の事前対応・情報共有が素早くできました。支援センターの役割は「4者の活動特色を生かした情報を有し支援体制の実践につなげること」が本来の目的です。情報を共有することが目的であってはなりません。7月の豪雨災害の山形県酒田市より支援要請があり、8月に現地視察9月に2便を約束済み急遽お断りし県内支援に。平塚市・二宮町・秦野市三市町にボランティアを派遣し専門ボランティアにつなげる共同のコーディネートも行いました。KSVネットのボランティアは研修を再三受けているため、慣れないVCでも安心して受け入れが出来ます、3市町のVCとも一般ボランティアは募集せずKSVネットから派遣と地元ボランティアのみでした。予想される大災害に備え能登地震の対応検証を反面教師に、市区町村社協の立ち上げるボランティアセンターの支援体制の構築が急務です。発災2日から1週間の地域での支援体制が関連死を抑える決め手になります。行政と地域自治体・社会福祉協議会と災害ボランティア団体が連携し、必要なあらゆる災害支援ニーズを把握し支援要請が素早くできる体制づくりが大きな条件となります。受け入れ態勢は平時の訓練から構築されます。

「災害対応は出来ることをする」ではなく「全て対応する」ことを目指す。受援力を発揮して！
怠りなく備えを進めるためご協力をお願いし、末筆ながら皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



台風第 10 号による県内被災・支援活動

8 月 22 日にマリアナ諸島で発生した台風第 10 号は、西日本から東日本の太平洋側を中心に記録的な大雨となりました。東日本では 9 月 1 日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まり、神奈川県内のアメダスによる観測では、月最大 72 時間降水量が小田原市、海老名市、平塚市、相模原市中央と観測史上 1 位の値を更新しました。これは平年の 8 月の月降水量の 2.1~3.3 倍に相当するものです。小田原市では 24 時間雨量が観測史上最大を記録。二宮町では警戒レベル最高の「緊急安全確保」が一時出され、横浜市の一部や平塚市など神奈川県内のほぼ全域に避難指示が出され、鉄道や道路に大きな影響が出ました。神奈川県は 8 月 30 日、平塚市、小田原市、秦野市、厚木市、伊勢原市、大磯町、二宮町、中井町、大井町、湯河原町に災害救助法を適用しました。また、県「災害対策本部」の設置に併せて、かながわ県民センター内のかながわ県民活動サポートセンターに神奈川県災害救援ボランティア支援センターが設置されました。神奈川県災害救援ボランティア支援センターは、被災市町村に設置される災害ボランティアセンターの運営支援を行うとともに災害救援ボランティアに関する情報等を発信します。県、(社福)神奈川県社会福祉協議会、(社福)神奈川県共同募金会、NPO 法人神奈川災害ボランティアネットワークの協働での運営です。

平塚市

9 月 7 日 (土) : 13 名、8 日 (日) : 12 名、14 日 (土) : 11 名、21 日 (土) 5 名、29 日 (日) : 3 名



9 月 4 日平塚市災害ボランティアセンター設置、ひらつか災害ボランティアネットワークが中心となり、KSV ネットをはじめ関係団体による活動となりました。大雨により斜面の崩落等が発生した市西部丘陵地での住宅の敷地に堆積した土砂の撤去、土砂侵入防止のための土嚢の設置 (9 月 7 日、8 日)。住宅裏の斜面が崩落し駐車スペースに堆積した大量の土砂を一輪車、軽トラックに積み、隣接する仮置き場へ運ぶ作業 (9 月 8 日、14 日)。予め送風機で乾燥させた、丘陵地の住宅の土砂が侵入した床下、平地部の浸水した住宅の床下に入っの土砂の撤去と清掃 (9 月 29 日)。各活動とも他団体と協力、床下の作業では技術系ボランティア団体の補助的な作業を行いました。時に気温 30℃を上回る中、熱中症に注意しながらの活動となりました。

二宮町

9 月 14 日 (土)、9 月 16 日 (月・祝)、10 月 5 日 (土)

床上浸水の平屋一部二階建て家屋、畳や家具を 2 台の軽トラックに載せて処分場まで運搬。床下作業は多摩川災害支援チーム (チームたま) に活動を依頼し、送風機で乾燥させた後にカビ取りや清掃を共同で行いました。ボランティアセンターより連絡で、富士見台に土砂災害被害家屋 3 棟あり作業依頼のため現地確認。土建業者より、土砂の流失山の所有者から、物置の撤去等すべてを委託されているとの回答を得て報告しました。



秦野市

9 月 21 日 (土)、22 日 (日)、23 日 (月・祝)、10 月 5 日 (土)、6 日 (日)、12 日 (土)、13 日 (日)、14 日 (月・祝)、19 日 (土)

鶴巻温泉駅より周辺の山の手住宅造成地、各所で土砂災害が発生していました。道路は狭く急斜面地の住宅では山の擁壁と建物の狭い水路の土砂の撤去は、一輪車が使えず手渡しでの作業が多かった。ニーズ件数は多くあり 10 月末まで続きました。土建業者に依頼したケースがあり 11 月中旬でセンターを閉鎖との意向でした。いくつかの関連団体ボランティアが参加し、床下等の作業も行われました。



VC 閉鎖 平塚市 VC、二宮町 VC が 10 月に、秦野市 VC は 11 月 15 日に閉鎖となり神奈川災害支援 VC も閉鎖。各社協、新たなニーズは通常ボランティアセンターで引き続き対応となりました。

2024年山形県大雨災害の被災地を支援するボランティアバス

第1便 10月18日(金) 22:00 出発～20日(日) 活動場所：酒田市 金曜日夜出発～土曜日活動～日曜日早朝横浜帰着(0泊3日バス車中2泊) 参加者：18名。雨中の活動となる。住宅地の排水路内の土砂出し。家屋、物置からの浸水家財・畳等の搬出、土砂の撤去、車両への積載と災害廃棄物集積所へ運搬。

第2便 11月3日(日)(0泊3日バス車中2泊) 参加者：19名。二階付近の高さ迄土砂が堆積する等被害の大きかった北青沢地区で、2班に分かれ、ビニールハウス内に堆積した土砂の撤去と納屋に侵入した土砂の撤去。晴天の中、暑さに注意しながらの活動。 ボランティアバス本事業は日本財団の支援金の助成を頂き運営しました



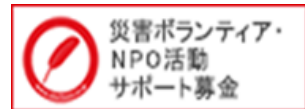
石川県の被災地を支援するボランティアバス

KSV ネット、ボランティアバスチーム、311 ネット3団体協働で3月から8月まで14便のボランティアバス派遣を行いました。KSV ネットは4月から6月までに4便を主催し、延86名の参加。全14便計で延300人弱のボランティアが石川県志賀町で支援活動を行いました。

第15便 11月30日(土)活動場所：輪島市 現地悪天候中止 第16便 12月7日(土) 初めて輪島市での支援活動。参加者：25名 現地は最高気温5℃、活動中は終始小雨で活動前後の時間帯は本降りになる。市内には地震による倒壊した家屋が多く見られ、活動場所の神社も石垣、灯籠、鳥居の倒壊、豪雨による土砂が社殿周りに堆積していました。社殿修理のため周辺の土砂の取り除き等の活動を行いました。



第17便 12月14日(土) 活動場所：志賀町 参加者：14名。現地の気温は最高6℃、晴れ間、曇り、雨やみぞれ、あられを短い間隔で繰り返す冬場の能登地方独特の天候の中、地震による転居や損壊した家屋の修復に伴う、家財の移動や家の中の片付け等の活動を行いました。他団体と一緒に6～7件のニーズに対応。志賀町では仮設住宅、仮設商店が増えた印象でした。



全国防災キャラバン・防災教育委員会

9月8日(日) 10時～15時30分 会場：イオンモール大和 三階イオンホール

防災キャラバンは本年度で8年目を迎え「“備えよ常に”みんなで作る、準備のこころ」をモットーに未来を担う子どもと保護者を対象に、万一の有事の際に役立つ「防災」に関する知識やスキルを得て頂くことを目的にボーイスカウトとイオンが共同で全国実施しています。当日は、様々な防災に関する体験コーナーを設けて開催。来場者は一般及び地域のスカウト関係者含め163名、KSV ネットは昨年より始めた防災カードゲームを行い、参加者は53名(1組3～5名で、約10数組)子供たちは楽しんでくれました。



横浜市総合防災訓練(第45回九都県)

市合同防災訓練)横浜会場 9月29日

会場 緑区長坂谷公園 展示体験エリアに出展

KSV ネットは、ICTを利用した災害ボランティア応募の体験、活動紹介を行いました。災害ボ



ランティアセンターでのkintone利用の説明をして意見交換させて頂いた、KSV ネットの被災地支援活動に関心を寄せ、掲示写真の被災地支援の活動説明に傾聴して頂く方々など多くの市民の参加者を迎えました。山中竹春横浜市長もブースに訪問され、写真が横浜市長の部屋のフォトダイアリーに掲載されています。

かながわ・よこはま防災ギャザリング 2024

10 月 12 日(土) 9 時 30 分～13 時 30 分

会場 横浜市民防災センター 沢渡公園(横浜市神奈川区沢渡)

防災教育委員会のメンバーを中心に、国土交通省提案の防災トランプゲームの紹介、体験コーナーで参加しました。多くの親子連れがゲーム体験に参加。ゲームを通して家庭内で防災意識を考えてもらうきっかけになればと思います。



ビッグレスキューかながわ

11 月 23 日(土)9 時 30 分～14 時

会場 神奈川県総合防災センター・消防学校内(厚木市下津古久280)

大規模災害を想定して、警察・消防・医療機関・自衛隊等多岐にわたる機関が 800 人体制で敷地内を 6 エリアに分かれて連携し、災害発生時における迅速な救助や医療体制をめざし訓練を行いました。体育館エリアでは避難所内医療・福祉訓練を兼ねた設置運営訓練が行われました。関係者や地域住民約 2000 名が来場し見学・体験を行った。

KSV ネットでは被災地活動紹介のパネル展示、災害ボランティアセンター体験、ボランティア応募・活動報告等の体験を展示体験エリアで行いました。



県・市町村 VC 間 情報伝達訓練

12 月 13 日(金) 13 時～15 時

県・市町村 VC 間情報伝達が県民活動センター10 階ボランティアサロンを訓練支援センターとして実施されました。県災害救援ボランティア支援センターは、県地域防災計画に基づき開設され、KSV ネットは県ボランティア活動サポート課、県社会福祉協議会、県共同募金会とともに県支援センター設置・協働運営機関として市町村災害 VC の運営支援を的確に行うため毎年訓練に参画しています。

今回の訓練は県西部地震発生を被害想定として、県社協・市町村社協災害 VC 間の情報伝達(災害 VC 開設状況、物資・資金・人員の要請内容)等、ICT システムを活用して実施しました。訓練当日は、協働運営機関 4 者の調整会議に始まり、市町村社協等出席によるオンラインでの情報共有会議等が訓練され、総勢 50 名近くの 4 者、市町村行政・社協、地域ネット他の参加により、災害対応能力・意識の向上を図りました。

<今後の予定>

第 29 回震災対策技術展

2025 年 2 月 6 日～7 日(日) 会場 パシフィコ横浜 D ホール

編 集 後 記	<p>多くの自治体が「地震が起きた時の 10 か条の心得」を発表しています。防災と減災は、どちらも災害への備えを意味する言葉ですが、意味合いが違います。防災は災害を未然に防いだり、災害による被害を防ぐための備え。減災は、災害の被害を最小限に抑えるための備えを意味します。自然災害を完全に予測することは、現代の科学技術では困難を極め、減災の考え方が重要です。減災とは、1995 年の阪神淡路大震災の経験から生まれ、「災害、または災害による被害は生じるもの」という考えを前提とし、被害を最小限に抑えるために備える事前対策です。減災で重要なのは、「自助」「共助」「公助」の円滑な連携。まずは自分自身や家族の身を守るため、また地域の人々と助け合うために、日頃から災害に備える事前対策を行っておくことが重要です。備えよ常に。私も町の地域防災計画を読み直しました。</p> <p>(広報委員：丸山善弘・石田昌美・櫻井展子・田口謙吉)</p>
------------------	--



この広報誌は共同募金年末助け合い分配金で発行しています